

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	日光市こども発達支援センターつばさ園（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	R7年 12月 16日		～ R8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○訪問先施設評価実施期間	R8年 1月 14日		～ R8年 1月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別療育を担当している心理士が支援員として訪問しているため、お子さんの発達の見立てと支援方法等の助言に加えて、園の先生のクラス運営や日々の悩みを含めて相談を受けることができる。	・カンファレンスにおいて、園のニーズやリソースの把握を行い、それぞれの園の特色と先生の個性を尊重しながら、園の中でお子さんの発達のニーズに合わせた配慮が受けられるように支援している。	・今後も園の先生方と信頼関係を築いて、お子さんの園生活が充実するような支援になるように努める。
2	・訪問支援後に、保護者に対面でフィードバックをしている。お子さんの園での様子や園の先生とのカンファレンスの内容をお伝えし、お子さんの強みや発達の課題などを保護者と話し合っている。	・園と保護者が円滑に信頼関係を築いていけるように、訪問支援員が園と保護者のそれぞれの気持ちや考えを受け止めながら、保育園（幼稚園）・保護者・つばさ園の三者の支援の方向性を理解し、協力関係になれるように意識してお話している。	・今後も三者が信頼感をもって協力し、お子さんの育ちを支えることができるように、心理士の調整機能を意識して取り組む。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・急な病欠などで、訪問支援が次の月になることがある。	・訪問支援員、保育園（幼稚園）、利用児の三者の予定を、同じ月内で調整することが難しい。	・訪問ができなかった月にも、園の先生と電話で近況の確認や相談などを行う。
2			
3			